

令和3年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

入学試験問題 外国語科目（英語）

注 意

- 1 試験時間は90分。
- 2 問題紙は6枚（表紙を除く）、解答紙は4枚。
- 3 設問Ⅰ、設問Ⅱの解答はそれぞれ別の用紙に記入すること。
- 4 辞書の持ち込み不可とする。

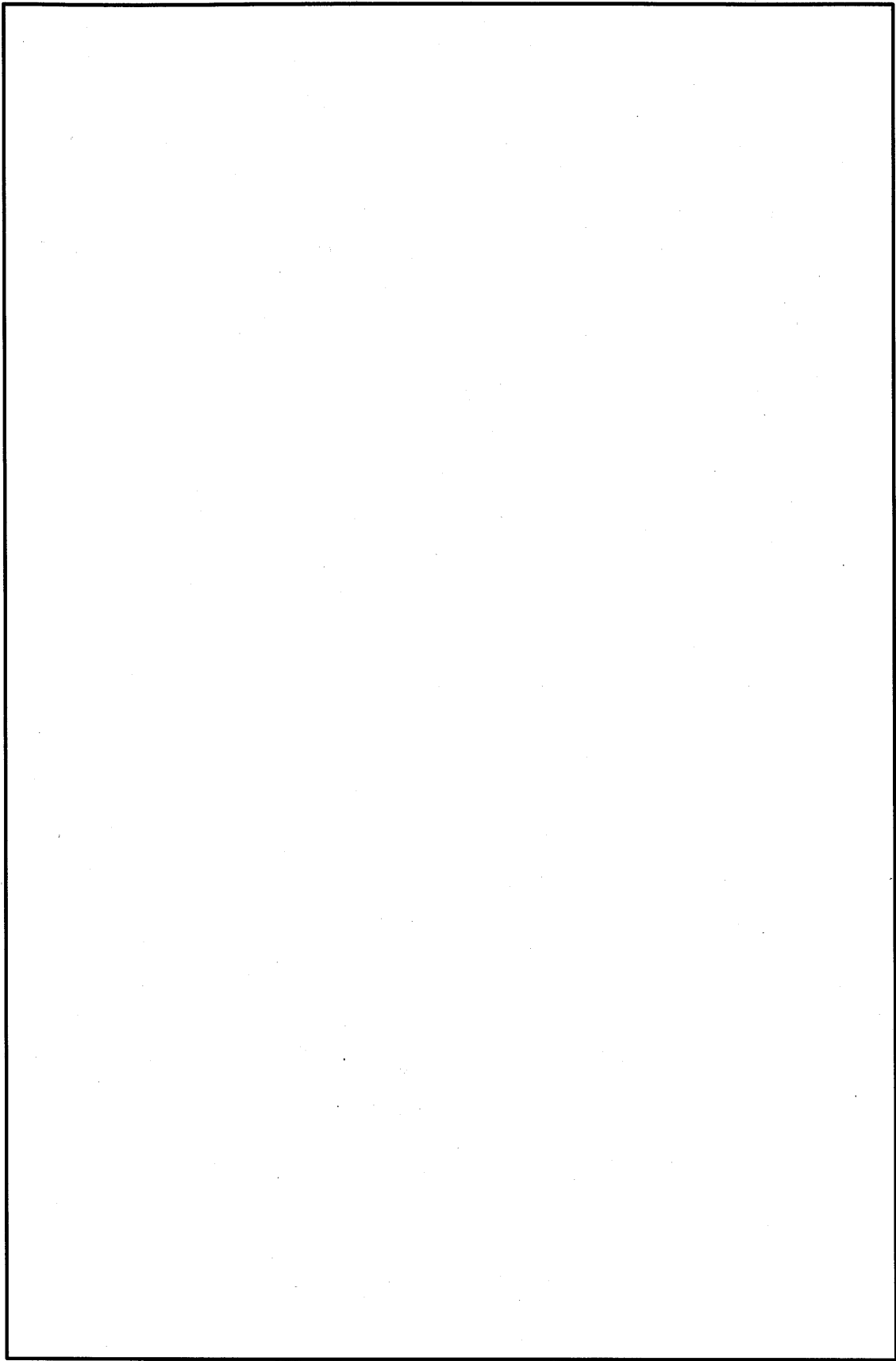
【設問 I】 次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。ただし、人名については原文表記のままでよい。

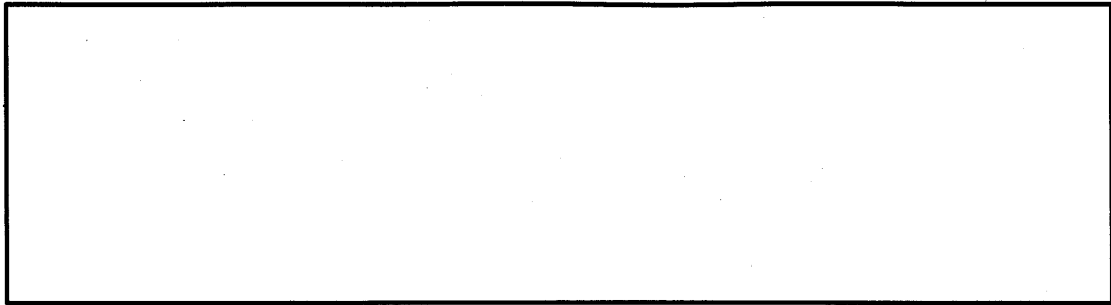
ここに下記文献の抜粋が入ります（一部改変）。

Forrester, G. & Garratt, D. (2016). Education Policy Unravelling (2nd ed.)
London: Bloomsbury, pp.179-181.
(p.179の20行目 "The impact of globalization..." から p.181の13行目 "...for policy-makers."まで)

また、次の部分について下線を付してあります。

- 下線部① p.179の20行目 "The impact of ..." から24行目 "... in education"
下線部② p.180の1行目 "The PISA tests...."から5行目 "(Wilby, 2013: n.p.)."
下線部③ p.180の30行目 "In previous surveys..."から35行目 "...(Sahiberg, 2013)."
下線部④ p.181の10行目 "Yet the PISA..." から13行目 "...for policy-makers."





(Forrester, G. & Garratt, D. (2016). *Education Policy Unravelled* (2nd ed.).
London: Bloomsbury, pp.179-181 より作成)

【設問Ⅱ】 次の英文を読み、下線部①～④を日本語に訳しなさい。ただし、人名については原文表記のままよい。

ここに下記文献の抜粋が入ります（一部改変）。

Finch, W. H. & French, B. F. (2019). Educational and psychological measurement. New York: Routledge, pp.2-3.

(p.2のDevelopment of Intelligence Testing 以下の文章から、 p.3の " This line of work,...Sackett, 2017)." まで)

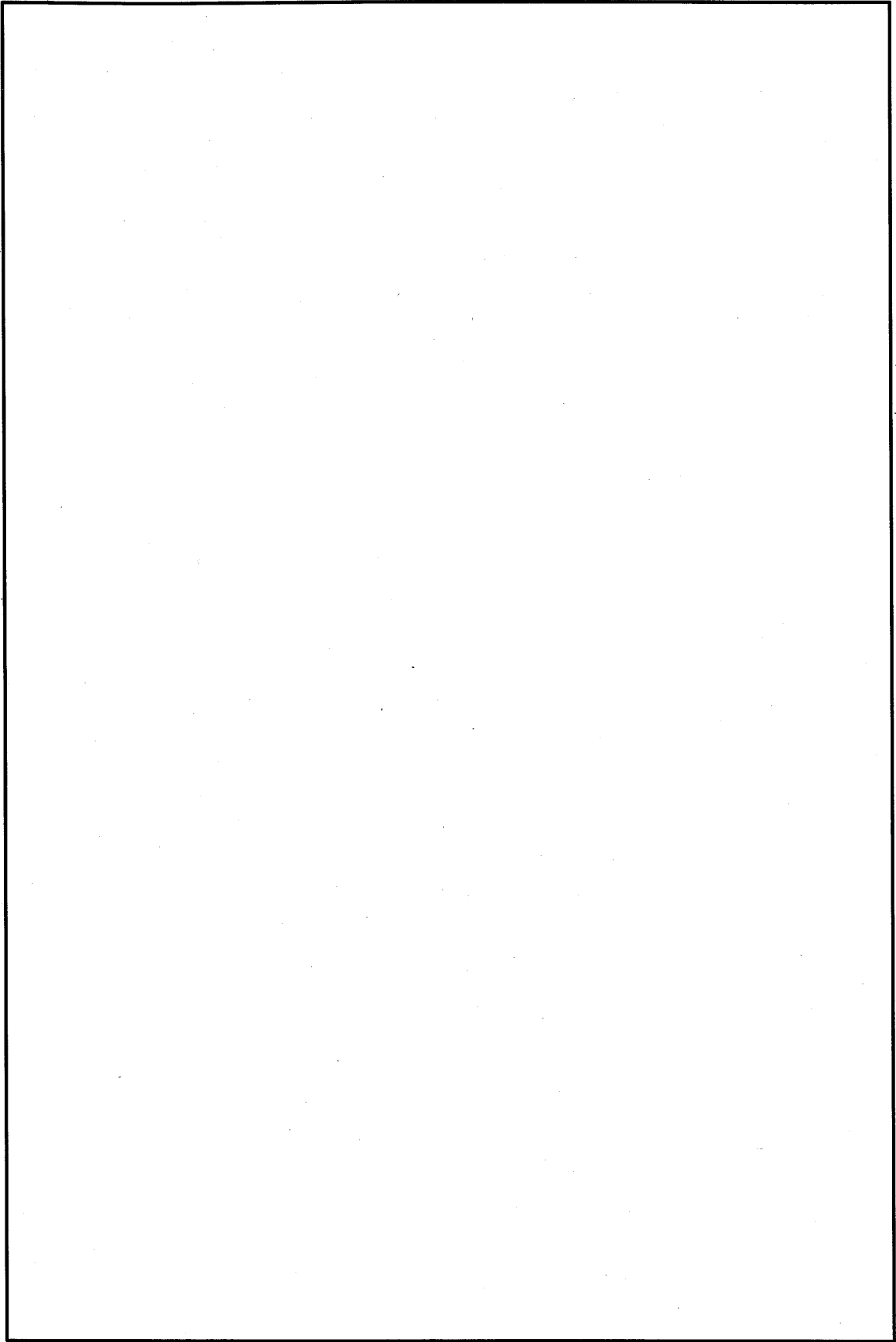
また、次の部分について下線を付してあります。

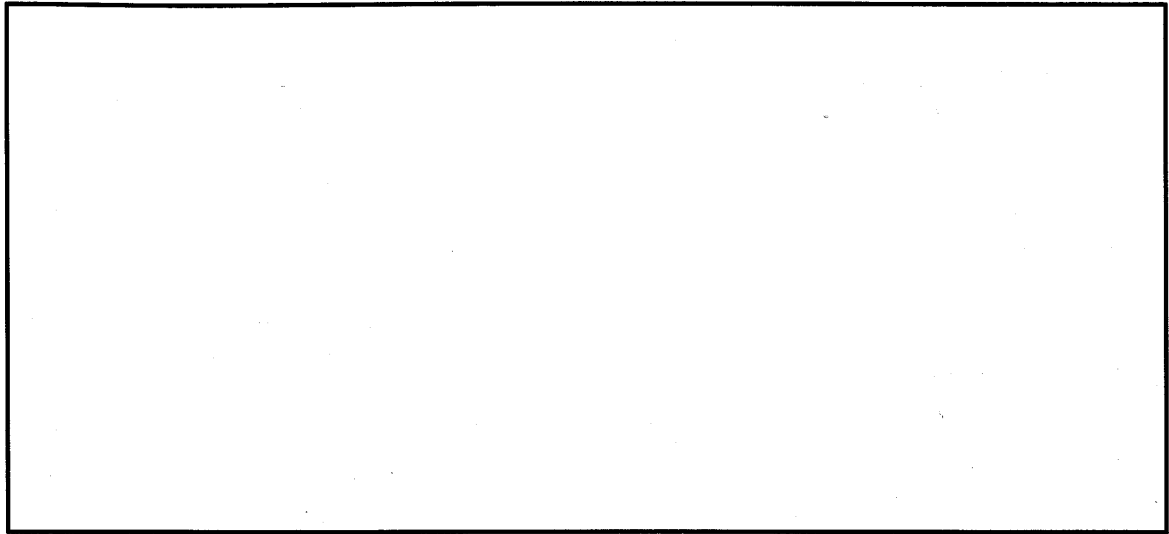
下線部① p.2の30行目 "The concept of the intelligence quotient..." から35行目 "...of human intelligence."

下線部② p.2の41行目 "In the 1930s,..." からp.3の2行目 "...of factor analysis."

下線部③ p.3の8行目 "However, regardless of..." から13行目 "...through your work."

下線部④ p.3の36行目 "Psychological testing and..." から41行目 "...(eg., Weiner & Greene, 2017)."





(Finch, W. H., & French, B. F. (2019). *Educational and psychological measurement*.
New York: Routledge, pp.2-3 より作成)

注) schizophrenia 統合失調症

令和3年度（第2期試験）

東北大学大学院教育学研究科博士課程

（前期課程・一般選抜）

教育政策科学コース

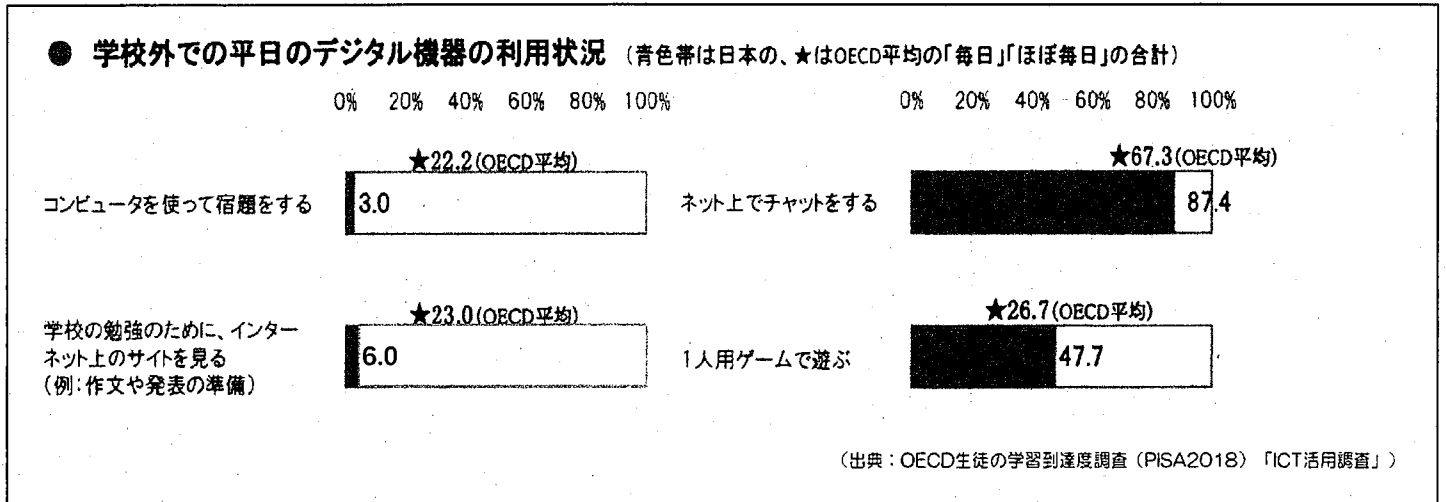
入学試験問題（専門科目）

注 意

- 1 試験時間は120分。
- 2 問題紙は2枚（表紙を除く）、解答紙は3枚。
- 3 解答は、設問番号を明記の上、設問ごとの指示にしたがって解答紙に記入すること。

設問 I

下の資料は PISA 2018 における ICT 活用調査の結果をもとに作成され、文部科学省のリーフレット「GIGA スクール構想の実現へ」に掲載されているものである。



(出典: https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)

この資料を参考にして、以下の問いに答えなさい (問1・問2への解答を解答紙1枚におさめること)。

問1 Covid-19 流行下の学習生活において想定しうる日本の生徒の強みと弱みについて説明しなさい。

問2 ICT を活用した学校教育活動を推進する上で、日本ではインフラ整備以外にどのような施策が重要であると考えられるか、説明しなさい。

設問Ⅱ

【教育行政学領域】

次の各問に答えなさい（問1・問2で解答紙を1枚、問3で解答紙を1枚使用すること）。

問1 以下の表は文部科学省による平成30年度教員免許状授与件数調査の結果の一部である。

- ①表から読み取れることを述べなさい。
- ②表から読み取れたことを踏まえ、近年の教育政策の特徴について説明せよ。

現職教育による隣接校種の普通免許状の授与件数

学校種	件数	教 科	基礎とした免許状に係る学校種
幼稚園教員	70		小学校70件
小学校教員	1,212		幼稚園357件、中学校855件
中学校教員	850	外国語676件、社会51件、国語36件、数学26件、理科21件、他	小学校759件、高等学校91件
高等学校教員	20	公民6件、情報5件、地理歴史4件、他	中学校20件
合計	2,152		

（出典： https://www.mext.go.jp/content/20200309-mxt_kyoikujinzai02-000005495_7.pdf）

問2 学校教育法施行規則では、不登校児童（第56条）や日本語に通じない児童（第56条の2）への教育課程の特例のほか、学齢を経過した者に対して夜間その他特別の時間において教育する場合（第56条の4）の教育課程の特例について定められている（上記の各条は中学校への準用規定あり）。こうした教育課程の特例が認められることの意義と限界についてあなたの考えを述べよ。

問3 教育行政学に関する次の語句のなかから 3つ を選択し、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ①「生涯学習の理念」（教育基本法第3条）
- ②概算要求
- ③住民自治と団体自治
- ④集権と分権
- ⑤半構造化インタビュー

令和3年度 (第2期試験)

東北大学大学院教育学研究科博士課程

(前期課程・一般選抜および社会人特別選抜および
外国人留学生特別選抜)

臨床心理学コース

入学試験問題 (専門科目)

注 意

1. 試験時間は120分。
2. 問題紙は1枚(表紙を除く)、解答紙は5枚。
3. 解答は所定の用紙に記すこと(設問Ⅰ～設問Ⅲの解答は各1枚の解答紙を用いて、設問Ⅳの解答は2枚の解答紙を用いて、(1)～(4)を1枚目、(5)～(8)を2枚目に記入すること)。

……………臨床心理学コース……………

【設問Ⅰ】 COVID-19の感染拡大や制限された生活が長期化することによる、心身への影響について述べなさい。(20点)

【設問Ⅱ】 不登校や不登校傾向にある児童・生徒への心理支援において留意すべきことを3点にまとめて述べなさい。(20点)

【設問Ⅲ】 カウンセリングにおいては、支援対象者に課題(ホームワーク)を課すことがあるが、支援対象者がそれに取り組んでこないことがある。想定される原因を一つ挙げ、それに対して考えられる対応策について述べなさい。(20点)

【設問Ⅳ】 以下の用語をそれぞれ5行程度で説明しなさい。(各5点)

(1) いじめ防止対策推進法

(2) 国際生活機能分類(ICF)

(3) コーホート研究

(4) 確証バイアス

(5) 円環的質問法

(6) 変換症(転換性障害)

(7) フロア効果

(8) HDS-R

(以下余白)